

高等学校 令和7年度（1学年用） 教科 国語 科目 言語文化

教科：国語 科目：言語文化 単位数：2 単位

対象学年組：第1学年 A組～ F組

使用教科書：（高等学校 言語文化（数研出版））

教科 国語 の目標：

- 【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特性を理解し適切に使うことができるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 生涯にわたる社会生活における他社との関わりの中で使え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
- 【学びに向かう力、人間性等】 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 言語文化 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
		話	書	読					
A 古文の世界を楽しむ1 【知識及び技能】 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。 【思考力・判断力・表現力等】 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	「児のそ寝」（宇治拾遺物語） ・歴史的仮名遣いの読み方を理解させる。 ・古文を音読し、古文と現代文の違い（歴史的仮名遣いで表記されている・主語や助詞の省略が多い・現代語には用いられない言葉がある・現代語とは異なる意味を持つ言葉がある・係り結びなど現代文とは異なる文の法則も用いられているなど）について気づかせる。 ・「いろは歌」の学習を通し「姦」や「ぬ」などの仮名遣いについて学習させる。 ・古語辞典の使い方を覚えさせ、重要語句を辞書で引き、意味を理解させる。 ・児と僧のやりとりから二者の関係性を推測し、そこから当時の文化や風習、社会情勢について理解させる。	○	○		【知識及び技能】 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。〔2〕ウ 【思考力・判断力・表現力等】 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 〔B(1)ア〕 【主体的に学習に取り組む態度】 積極的に児と僧の様子や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。	○	○	○	6
B 古文の世界を楽しむ2 【知識及び技能】 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。 【思考力・判断力・表現力等】 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	「検非違使忠明」（宇治拾遺物語） ・古文の描写から当時の建物の造りや役職などについてインターネット等を活用して調べ、理解させる。 ・『宇治拾遺物語』と『今昔物語集』の話を読み比べ、類似点と相違点についてまとめさせる		○		【知識及び技能】 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。〔2〕ウ 【思考力・判断力・表現力等】 「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。〔B(1)エ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 粘り強く『宇治拾遺物語』収録話と『今昔物語集』収録話の違いを抽出し、学習課題に沿って両話の性格の違いをまとめようとしている。	○	○	○	6
1 学期 C 受け継がれる古文1 【知識及び技能】 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解することができる。 【思考力・判断力・表現力等】 作品や文章に表れているものの方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	「羅生門」 ・本文を読み、5W1Hを読み取らせさせる。 ・『方丈記』等其他の作品の記述や中学校での歴史の学習等から、設定されている時代背景について理解させる。 ・「羅生門」付近の雰囲気や下人の人物像について考えさせる。 ・「老婆」の言葉から「老婆」の論理や「正義とは何か」「悪とはなにか」について考えさせる。 ・書き換えられた結末部分によって読者の印象がどう変わるかや作者の創作意図について考えさせる。 ・「下人」がこの後どうなったか自分の考えを文章にまとめさせる。 ・比喩表現の効果について理解させる。 ・作者芥川龍之介について調べさせる。		○		【知識及び技能】 文章の意味は、文脈の中で形成されていることを理解している。〔1〕エ 【思考力・判断力・表現力等】 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。〔B(1)イ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 粘り強く自らの作品世界を構築し、学習課題に沿って自分の考えを文章にしようとしている。	○	○	○	9
D ②受け継がれる古文2/探究の扉 【知識及び技能】 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解することができる。 【思考力・判断力・表現力等】 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	「羅城門の上層に登りて死人を見る盗人の語」（今昔物語集） ・『今昔物語集』「羅城門の上層に登りて死人を見る盗人の語」を読み、『羅生門』との相違点をまとめさせる。 ・類似点がどのような効果をもたらしているか自分の考えを文章にまとめさせる。	○	○		【知識及び技能】 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。〔1〕ア 【思考力・判断力・表現力等】 「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。〔B(1)エ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 粘り強く『羅生門』と『今昔物語集』の差異を見極め、学習課題に沿って考察しようとしている。	○	○	○	4
定期考査						○	○		1

